

雅楽「王朝の舞楽」

～現代に伝えたい日本古来の音楽と舞～



平成26年2月2日(日) 午後1時30分開場 午後2時開演

会場 平塚市中央公民館 大ホール

チケット 全席自由 2,500円

出演 多度雅楽会

演目 えんぶさんせつ なそり わらべまい しゅんでいか げんじうらく ちょうびいし
振鉾三節、納曽利(童舞)、春庭花、還城楽、長慶子

発売日 平成25年11月9日(土) 午前10時から

- (公財)平塚市まちづくり財団 文化事業課 (平塚市民センター内) ☎0463-32-2237
- 山野楽器 (平塚ラスカ4階) ☎0463-27-1930
- ヨネザワ楽器 (MNビル1階) ☎0463-23-7097
- レストランくすの木(平塚市中央公民館内) ☎0463-34-0456
- ラディアン (二宮町) ☎0463-72-6911

電話予約 平成25年11月10日(日) 午前8時30分から

(公財)平塚市まちづくり財団 文化事業課 (平塚市民センター内) ☎0463-32-2237

主催 平塚市・(公財)平塚市まちづくり財団



舞楽について

雅楽の舞は、古代歌謡を起源とする「国風歌舞」（くにぶりのうたまい）と、外来舞を起源とする「舞楽」（ぶがく）があります。いずれも、平安時代に国風文化の影響を受けて、外来楽舞を受容しつつ日本人の趣向に再構成され、日本の伝統文化として継承されてきました。舞楽は、中国インドシナなど南方系伝来の「左方舞」（さほうのまい）と、朝鮮半島など北方系伝来の「右方舞」（うほうのまい）に大きく分類され、「舞人」（まいびと）は「管方」（かんかた）演奏にあわせて舞います。

《演奏》

演奏方法も、左方は「唐楽」（とうがく）と右方は高麗楽（こまがく）に原則として分類され、楽器構成が異なり、舞も、唐楽は管楽器の旋律に、高麗楽は打楽器の拍子に合合わせます。

○唐 楽：管楽器（鳳笙、篳篥、龍笛）と打楽器（鞀鼓、太鼓、鉦鼓）

○高麗楽：管楽器（篳篥、高麗笛）と打楽器（三の鼓、太鼓、鉦鼓）

《種類》

舞の種類は、左方右方ともに、平舞（ひらまい）、童舞（わらべまい）、武舞（ぶのまい）、走舞（はしりまい）などに分類されます。

○平 舞：「萬歳楽」「延喜楽」など、文人姿の舞人がゆったりと優美に舞う。

○童 舞：「迦陵頻」「胡蝶」など、青年前の男子や若女がかわいげに舞う。

○武 舞：「太平楽」「陪臚」など、武人姿の舞人が鉦を持って勇壮に舞う。

○走 舞：「陵王」「納曾利」など、舞楽面の舞人が桴を持って闊達に舞う。

《装束》

舞楽装束は、四季に恵まれた我が国ならではの自然の色彩と感性で、花や動物などを、袍（ほう）や下襲（したかさね）などに絹刺繍で意匠した芸術作品です。唐楽は赤紫に金細工、高麗楽は青黄に銀細工を装飾の基調としています。

平舞では、赤と緑の豪華絢爛な唐様「襲装束」（かさねしょうぞく）と、紫と青の王朝様式の「蛮絵装束」（ばんえしょうぞく）を用います。そのほか、「別様装束」（べつようしょうぞく）は、舞楽ごとに面や装束が異なります。

走舞では、遊牧民族の毛皮を現した毛べりの衾襠装束（りょうとうしょうぞく）を用います。

《舞台》

舞台は、三間四方の平台に緑色牡丹文様の地敷（じふ）を敷いて、その周囲を四間四方の擬宝珠（ぎぼうしゅ）柱と朱高欄（こうらん）で囲みます。舞人は、左方は舞台の左から、右方は舞台の右から、それぞれ登台して舞い、退出します。管方は、楽所幕（がくそまく）を背景に、大太鼓や大鉦鼓（左方に日輪の金に昇龍、右方に月輪の銀に鳳凰）などの装飾された打楽器と公達姿の楽人を配置します。

